

小学校  
1年/算数

## どちらがながい

～ICTを活用した基礎・基本の定着を促す授業～  
実践者 栗原市立大岡小学校 佐々木 恵理子

## 1 学習の概要

### 単元名

どちらがながい

### 本時の目標

身の回りのものの長さを、任意単位を用いることによって、数で長さを表せることを理解する。

### 本時の学習

#### 学習活動

- 1 長さ比べフラッシュを楽しむ  
「どちらがながい？」
- 2 学習課題をつかむ  
「まずで、いくつぶんのながさでしょうか」
- 3 5つのもののながさを「まず」  
でいくつ分か調べる。
- 4 調べた長さを発表する。
- 5 学習のまとめをする。

#### 本時活用機器・コンテンツ

- ・電子黒板（プラズマー体型）
- ・実物投影機
- ・自作コンテンツ(教科書拡大図)  
(PowerPoint)

#### 補助資料等

#### 指導上の留意点

- えんぴつ、消しゴム、紙テープなどを2つ並べた絵や写真を提示し、どちらが長いかを元気よく答えさせる。
- まず実物投影機上で長さ比べをし、その後マス目を加えたものを提示し、マス何個分という数え方を知らせる。
- プリントを活用して、マス何個分かを自力解決させる。
- 電子黒板上で、書き込みながら発表させたり、児童のプリントを実物投影機上で提示しながら発表させる。



## 2 学習のポイント

### ・フラッシュ型教材の活用

ゲーム感覚で楽しくフラッシュを行うことにより、既習の学習内容のより確かな理解を促すと共に、学習への意欲を喚起させることができる。

### ・教科書の拡大提示

教科書の画像をそのまま拡大提示することにより、意欲を喚起すると共に、指示を徹底することができる。

### ・書き込みによる効果

電子黒板上で、書き込みながら指導したことにより、マス目の数え方を確実に理解させることができる。

### ・分かりやすい発表

児童に書き込みをさせながら発表させることにより、どのように数えたのかが聞き手によく分かる発表になる。  
また、児童の書いたプリントをそのまま拡大提示して発表させることにより、聞き手が自分の考えと比較しながら見聞きすることができる。



## 3 参観者の声

### ・事後のワークショップより

体全体を使って楽しそうにフラッシュに取り組んでいた。計算、漢字等色々な学習で効果がありそうだ。

電子黒板上でマス目の数え方を書き込みしながら指導することによって、どの子ども数え方を理解していたようだ。ICT活用による「見せる効果」「指示の徹底」がとても印象的だった。

児童の書いたプリントを拡大提示しながら発表することにより、「発表を聞く」と言うより、「発表を見る」ことの効果を見せてもらった。

